

# 語学を学ぶにあたって

赤松 咲

語学習得については一般的に様々な意見や方法が述べられていますが、ここでは私が留学生活の中で重要だと思った点を簡潔にまとめたいと思います（これについて述べるとなると、何千字あっても足りない！）。また私自身勉強方法は十人十色だと思っていますので、あくまで参考にまでに。

## 1、音の構成を理解する

例えば、中国語の「da」という音は無気音の「d」という子音と「a」という母音の組み合わせからできている。論理的に音の構成を理解し、次に自分で完全に正しい音を出せるようにする。できるようになるまで何度も練習すること。

## 2、厳格（間違いに敏感）な先生を見つけること

ただ単に厳しいだけの先生ではなく、間違ったらその場で正してくれるような先生。学校の先生でなくとも、ネイティブスピーカーと友人になってもよい。一緒にいて間違いを正されうんざりするぐらいがちょうど良いかもしれない。後にありがたみがわかることだろう。

## 3、インプットとアウトプット

現地の人間と話すのも大事。自分で確認する時間も大事。例えば、早朝一時間自己学習、次に授業で朝覚えた単語をできるだけ使って先生に質問などしてみるなど。語学はインプットとアウトプットのバランスが大事。

## 4、若ければ若いほどいいわけではない

これも研究者によって意見が分かれる。つまり、語学を学ぶにあたり年齢が若い方がよりよいという意見、一方、ある程度論理力がついた年齢からスタートする方がよいという意見。前者は第一言語習得の場

合のみに適応され、第二言語習得に関しては後者が有力であろう。前者の方法の場合、ある程度の（つまり会話に支障はないがより高度なそれには適応できない）語学習得は期待できるが、ある年齢（つまり耳に入った単語が自然と記憶できる年齢）を超えてからは、より難度の内容や単語を理解、暗記する術を得ることは難しい。

## 5、興味のある言語を学ぶ

確かに、必要不必要で語学を学ぶことも重要であるが（経験上、英語を話せると便利だし、そしてコミュニケーションの幅が広がった）、自分に向いている言語、興味のある言語を学ぶことも同じくらい重要であることを忘れてはいけない。私自身、元々中国自体に興味はなかったのだが、中国語の音が大好きで留学までしてしまった。例えば、「フランス語の音がきれい。」とか「イタリア語なら自分にもできそう。」など。あなた自身が学ぶたいものを選ぶべき。

## 6、始めが肝心

これはいわば運ともいえる。私は大学で初めて中国語の授業を初めてうけた。それまで中国語に興味をもったことすらなかったし、その授業を受けたのも、一単位空きがあったため。だが、その授業を受けてすぐ中国語が好きになった。何故なら、その教授の授業の質が大変魅力的であったため。語学の授業の際、一番大事なのは大きな声で正しく発音すること、そしてもし間違った場合その場で指摘してくれる先生がいること。よく日本人は授業中恥ずかしくて発音しない（もちろん授業以外にも）。けれども、それは後に絶対後悔する。私は授業中、大きな声で発音し、何度も注意された（恥ずかしいとは思わなかった。何故なら、学びたい気持ちの方が強かったから）。始めが甘いと、その後妥協する可能性もあるし、始めが厳しすぎて精神的に参ってしまう場合もある。とりあえずは、良い師匠を探すことに妥協しないようにするべし。

北京にて



雲南省にて

